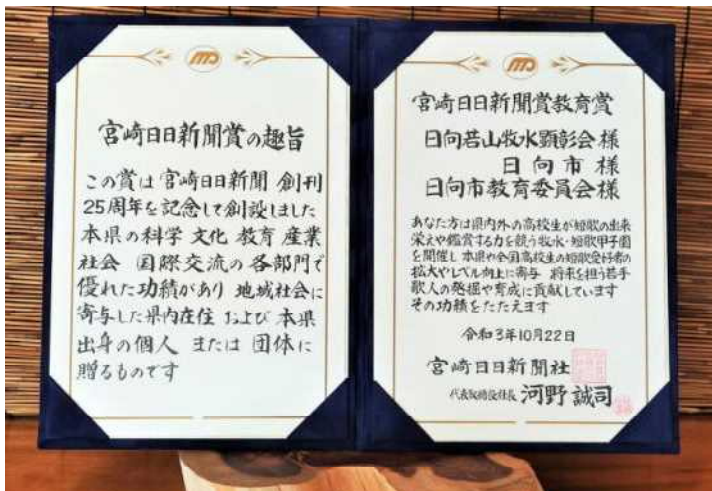


文学館だより

令和 3年11月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

107 日間に及ぶ国文祭・芸文祭が閉幕しました。「記紀・神話・神楽」「宮崎国際音楽祭」「宮崎の食文化」と並び「若山牧水」に焦点を当て、プログラムが展開されました。坪谷小学校児童の牧水短歌詠唱の開会式に始まり、閉会式前日には短歌オペラ上演と牧水熱は最高潮に達したと強く感じました。『宮崎に牧水あり！』

本顕彰会 第57回 宮崎日日新聞賞教育賞 受賞



【受賞理由】

県内外の高校生が、短歌の出来栄えや鑑賞する力を3人1組の団体戦で競う「牧水・短歌甲子園」を宮崎市の歌人、伊藤一彦さんの発案により、2011年から若山牧水の故郷である日向市で毎年開催。参加者は年々増加傾向にあり、本県や全国高校生の短歌愛好者の拡大やレベル向上に寄与。特に県内では、短歌甲子園出場を機に本格的に短歌を始めた若者が少なくなく、「短歌県みやざき」を目指す上で将来を担う若者歌人の発掘や育成に多大なる貢献をしてきている。

この度、11 回と回を重ねた「牧水・短歌甲子園」を主催する日向市、日向市教育委員会、日向若山牧水顕彰会の三者が第 57 回宮崎日日新聞賞教育賞を受賞いたしました。

10 月 22 日（金）宮日会館にて贈呈式が行われ、本顕彰会からは顕彰会会長と事務局長が出席いたしました。

伊藤一彦先生発案で県内 5 校から始まった牧水・短歌甲子園。九州大会、九州・山口大会を経て、現在は全国大会へと発展しています。今では、OBOG「みなと」に所属して、高校卒業後も短歌を詠み続けている若者が大勢います。「牧水・短歌甲子園」にとって、更には「短歌県みやざき」を掲げる本県にとって、若者の力は無限大です。

第 26 回 若山牧水賞 黒瀬 珂瀾 氏に決定

10 月 27 日（水）第 26 回 若山牧水賞が発表されました。



黒瀬 珂瀾 氏

【受賞者】 黒瀬 珂瀾（くろせ からん）氏

【受賞作品】 歌集『ひかりの針がうたふ』（第 4 歌集）

発行所 / 書肆侃侃房

発行年月日 / 令和 3 年 2 月 1 日

余したる離乳食わが白米にかけて済ませる朝餉のあはれ

【作歌活動】 短歌結社「未来短歌会」 「読売歌壇」選者ほか

【黒瀬氏受賞コメントより一部抜粋】

九州の空と海の光を見つめ、幼い娘の〈命〉を実感しつつ、父とは、親とは何かを問い続ける日々が歌となりました。旅と命、この点で牧水と繋がったのかと、ふと思いました。

（資料提供 若山牧水賞運営委員会）

短歌オペラ「若山牧水 海の声山の声」 涙、涙の第3幕

牧水没後90年、喜志子没後50年を数えた平成30年、日向市で牧水オペラ「若山牧水 海の声」が上演された。ご覧になられた方もいらっしゃるだろう。あれから3年の時を経て、短歌オペラが宮崎に戻ってきた。前回に加え、今回は第3幕「故郷 日向の国」が書き加えられた。父、立蔵の十三回忌のために、牧水が旅人を連れて坪谷に帰る場面である。

前回と同じく、脚本は伊藤一彦先生、作曲・演出・指揮は仙道作三先生。牧水役、園田小枝子役、喜志子役の歌手の皆さんも変わらず、3年前を懐かしく思い出しました。

【見どころ1】 園田小枝子、母マキ、喜志子（場面の必要に応じて）の気持ちになって、伊藤一彦先生が見事に「代作」されています。

夢に見しわが孫旅人うつつにぞ近づきてくる静ごころなし
あくがれがおまえの好きな言葉らし貫ききたる心あつばれ

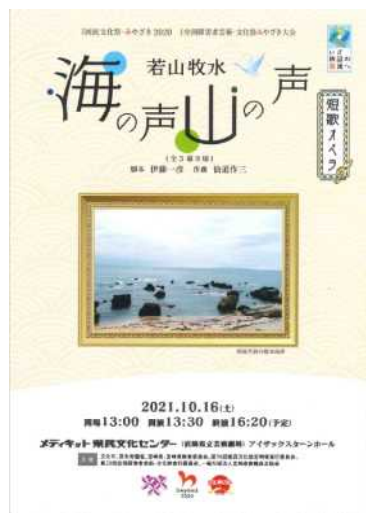
【見どころ2】 3年前はピアノ1台の伴奏でした。今回はヴァイオリン、チェロ、フルート、クラリネット、トランペット、ホルンが加わり、室内オーケストラの音も楽しむことができました。

【見どころ3】 「シアター・ピース」といわれる劇場音楽を取り入れられ、メロディーがついた複数の短歌の曲を劇場内の東西南北から歌い歩くというものでした。一人一人の内もとを凝視しながら聞き入ってしまいました。

【見どころ4】 歌われる短歌が1枚1枚岩切天掃氏（宮崎県書道協会顧問）の書でスクリーンに映し出されました。舞台と相まって迫力を感じました。

【見どころ5】 坪谷小学校児童3名が、^{たびと}旅人役と村の子ども役で登場しました。舞台慣れしているのが、歌う時も語る時も堂々たるものでした。

特に第3幕は、坪谷への思い入れが手伝ったかもしれませんが、書の演出を見て胸が詰まり、牧水と母マキの対面シーンを
見て胸が詰まり、伊藤先生代作の短歌を見て胸が詰まり、終始胸がいっぱいでした。『宮崎に牧水あり！』を痛感した一日でした。



今月は『牧水先生の一首 折に触れて出会う一首』はお休みします。

【見どころ1】で先述したとおり、伊藤一彦先生が「代作」された短歌が数多く歌われましたので、一部ですが紹介します。

短歌オペラで歌われた伊藤先生の「代作」をどうぞご堪能ください。

このわれを育みくれし母上を旅人よく見よ山河とともに
幼かりし^{たびと}旅人も^{とお}十歳を越えたるか繁も四十歳か待らし甲斐ある
凜々しきは父ゆづり^{いや}否祖父ゆづり真すぐりにのばせ身をたましひを
いざ^{さかずき}盃祝ひの酒だ父さんも天から降りてともに酒酌まむ
透きとほる水をかさねて青となる不思議のごとき牧水愛す
春おぼろ夏きらきらと秋冬は澄みに澄むなり日向の空よ^{ひむか}

「今回は音楽伴奏も最も充実しており、宮崎県のレガシーとなる短歌オペラと思う。」と伊藤先生はおっしゃっています。

短歌オペラ「若山牧水 海の声山の声」より